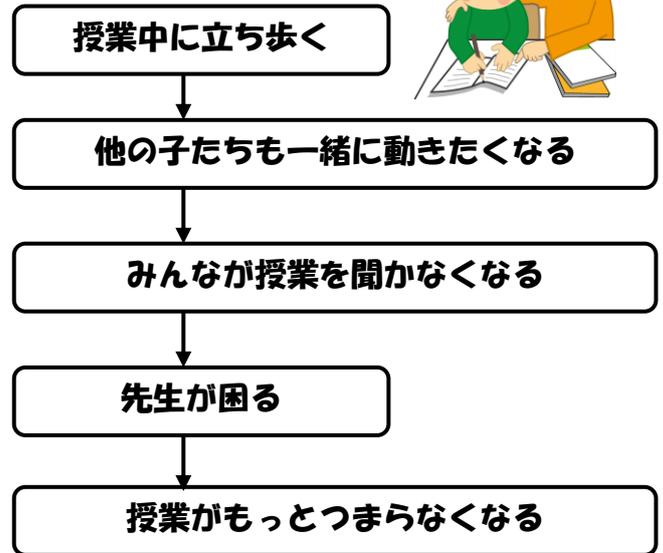




個々の特性を知り学習に生かす

理屈で理解させる

学習に集中できず、立ち歩いたり、手悪さをしたり、おしゃべりをしたりして、みんなの学習を妨害してしまうケースがあります。そんな時、しっかりと理由を示して理解させることも大切です。子供の行動を変えるには、時には、理屈で理解させることも必要です。「なぜいけないのか」「どうしてがまんしなければならないのか」、本人自身が納得することが大切です。



多重知能理論

ハーバード大学心理学者ハワード・ガードナー博士

ガードナー博士は、人間の持つ知能には8種類あり、この8種類の中から子供の特性に合わせて得意な方法で学習させれば、その子の持つ能力は大きく引き上げられると述べています。

①言語的知能	文章を書くことや言葉に興味がある。読書好き。
②論理・数学的知能	数量に興味があり、分析するのが好き。科学的なことに対する理解が早い。
③空間的知能	言葉で説明されるより、絵や図、写真などビジュアル重視で説明された方が理解しやすい。
④音楽的知能	歌や楽器演奏が上手で、音を聞き分けられたり、メロディをすぐに覚えられたりする。本や教材を音読や歌にするなど、声に出すと学習がうまく運ぶ。
⑤身体運動的知能	実験や道具を使うなど、実際に手や体を動かしながら集中させる。
⑥対人的知能	1人でやるより他の人と一緒にやる方がはかどる。
⑦内省的知能	1人でじっくり考え、困ったときも自分で解決する。
⑧博物的知能	特定の物事に詳しく、図鑑好き。観察力がある。

子供は誰かを困らせようとして行動しているわけではなく、その子なりの事情があるのです。「困った子」ではなく「困っている子」ととらえ、一緒に問題解決できたらと思います。

(参考：東洋経済オンライン 加藤紀子著「ちょっと気になる子育ての困りごと」)